



## 第 38 回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム人文学・社会科学賞～

<順不同、敬称略>

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

### 入賞（賞金 100 万円）

#### 「マスメディアとは何か--「影響力」の正体」

（書籍発刊：中央公論新社，2022 年 7 月）

稲増 一憲 関西学院大学社会学部 教授

本書は、インターネットの普及にともないマスメディアへの不信が高まっているという認識を前提としつつ、マスメディアからインターネットまでを視野に入れて、メディアが受け手に与える影響について科学的に検証し、デジタル時代においてマスメディアがどのような役割を果たしうるかを考察している。21 世紀に通用するメディアの理解を指し示そうとする意欲的な著作である。

### 入賞（賞金 100 万円）

#### 「Platform Information Transparency and Effects on Third-Party Suppliers and Offline Retailers」

（Wiley, Production and Operations Management, 2021 年 11 月）

善如 悠介 神戸大学大学院経営学研究科 准教授  
角田 侑史 神戸大学大学院経営学研究科 准教授

本作における学術的な貢献はゲーム理論に基づくモデルを構築し、複雑なサプライチェーン全体を解明している点であり、実務的な貢献はプラットフォーム事業者からの情報共有の有無が卸売モデルと代理店モデルに、どのような影響を及ぼすかを明らかにした点である。モデル分析であるため実践的示唆に関して課題は残るものの、国際的に評価の高いジャーナルの査読論文であり、完成度は高く、テレコム人文学・社会科学賞の入賞に値する論文である。

### 奨励賞（賞金 50 万円）

#### 「現代中国の官僚組織行動 電気通信事業改革の政治過程」

（書籍発刊：法律文化社，2021 年 10 月）

佐々木 智弘 防衛大学校人文社会科学群国際関係学科 教授

本作は、無線規格など電気通信事業改革に関する中国における中央指導部と郵電部の権力関係を分析した労作である。西洋の政権と官僚制の関係に関する理論が、共産党政権体制においてそのまま妥当するか否かについては、なお検証されたい。本書の分析は 3G までであり、その後 4G、5G に至る段階で中国の TD-LTE は有力な無線規格として世界的に普及し、今日の米中の対立の主たる争点となっている。ぜひ引き続き研究を続けられたい。



### 奨励賞（賞金 50 万円）

#### 「ネット社会と民主主義--「分断」問題を調査データから検証する」

（書籍発刊：有斐閣，2021年11月）

辻 大介 大阪大学大学院人間科学研究科 准教授  
鈴木 謙介 関西学院大学社会学部 准教授  
北村 智 東京経済大学コミュニケーション学部 教授  
小笠原盛浩 東洋大学社会学部 教授  
田辺 俊介 早稲田大学文学学術院 教授  
樋口 耕一 立命館大学社会学部 教授  
浅野 智彦 東京学芸大学教育学部 教授  
三浦 麻子 大阪大学大学院人間科学研究科 教授  
河井 大介 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 特任助教  
渡辺健太郎 大阪大学大学院人間科学研究科 特任研究員  
齋藤 僚介 大阪大学大学院人間科学研究科 博士後期課程3年

本作は、ネットによる分断問題と民主主義の関係を全国調査とウェブ調査にもとづいて分析した論文集である。共通の問題意識をもつ著者らが、各視点から実証的・多角的に検証を行っている。11名による合作であるが、共同研究であり全体で一本の著作物としてそれなりに編集されている。統計学の専門的手法を使っているが、分かりやすく書かれている。ネットと社会的分断の関係を精緻に研究した意義は大きい。

### 奨励賞（賞金 50 万円）

#### 「ソシオテクニカル経営：人に優しいDXを目指して」

（書籍発刊：日本経済新聞出版，2022年9月）

櫻井美穂子 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 准教授  
國領 二郎 慶應義塾大学総合政策学部 教授

本作は、既存研究や政策調査結果を丹念に参照しながら議論を展開しており、企業経営、政策にかかわる実践面への貢献は評価される。学術研究書というより啓発書の域を出ていなく、完成度という点では高いとは言えない。著者の今後の研究の深化を期待している。